



食べることは、生きること
～日々、食事を提供する調理員さんが輝いた物語～
“調理員さんを光に”プロジェクト 第1回表彰式

—報告書—

開催日時:2024年2月9日(金) 12時40分～13時55分

会場:びわ湖大津プリンスホテル

主催:“調理員さんを光に”プロジェクト

共同代表 岡山慶子(株式会社朝日エル会長)

水流源彦(全国地域生活支援ネットワーク理事長)

株式会社朝日エル

《プロジェクトの趣旨》

“調理員さんを光に”プロジェクトは、「食べることは、生きること」を合言葉に、福祉のプロと食のプロが協働して活動しています。美味しく楽しい施設給食、食を通じたよりよい支援、地域の生産者やコミュニティとの連携を目指しています。

施設給食には、たくさんの可能性が秘められています。さかのぼれば、その歴史は学校給食に始まり、戦後の日本の栄養状態の改善や食習慣に影響を与えてきました。そして福祉施設においても、利用者さんの健康を守り、日々の美味しさ、楽しさをつくり、自立支援に向けても大きな役割を担っています。

しかし、ご存じのとおり、今日の施設給食をめぐる状況は複雑です。給食の提供に関わる人材の不足、働きがいや安全の確保、多様化するニーズへの対応など、さまざまな課題があります。このような厳しい状況の中でも、調理員さんたちは「食べる」ことを通じて、利用者さんやご家族の「生きる」を支えてくださっています。

これまでの福祉施設の経営において、調理員さんの活躍が取り上げられることはあまりありませんでした。ですが、調理員さんたちの想いや活躍を知り、その情報を共有していくことが、これからの施設給食の可能性や、食を通じたよりよい支援を、共に考え、創りあげる一步になると、わたしたちは考えています。調理員さんが輝くことが、れからの福祉の未来を変える。“調理員さんを光に”という名前はこのような想いから生まれました。

そして、「第27回アメニティーフォーラム」に際し、「調理員さんが輝いた物語」を募集した結果、いくつもの素晴らしい取り組みをシェアいただきました。その中から選ばれた優秀賞2団体、審査員特別賞2団体を表彰いたしました。

そこから得られたヒントを、会場の皆さま、全国の福祉施設に還元し、よりよい施設給食の実現に貢献できれば幸いです。

《審査員》

- 【審査員長】 服部幸應(学校法人服部学園 服部栄養専門学校 理事長・校長)
- 【審査員】 岡山慶子(株式会社朝日エル 会長)
- 久保厚子(一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 顧問)
- 下浦佳之(公益社団法人日本栄養士会 専務理事)
- 村木厚子(社会福祉法人全国社会福祉協議会 会長) (敬称略)

《受賞団体》

- 【優秀賞】 社会福祉法人 ぎつき福祉会 障害者支援施設 琴弾の丘
『コロナで旅行ができない中でのバーチャル旅行食』
- 社会福祉法人 グロー滋賀県立 むれやま荘
『食べることは生きること
～多職種で取り組む「給食」の現場と実践とこれから～』
- 【審査員特別賞】 社会福祉法人 三気の会
『心を救った“いつもと同じ味”』
- 社会福祉法人 清心会
『地域に根差した「ぼっぼのカレー」』



《表彰式の様子》

1. オープニング



“調理員さんを光に”プロジェクト 岡山慶子共同代表より、趣旨説明

2. 表彰状授与



服部審査員長より、
琴引きの丘様へ



服部審査員長より、
むれやま荘様へ



久保審査員より、
三気の会様へ



下浦審査員より、
清心会様へ

3. 審査員による講評

◆服部幸應審査員長

今回選ばれた4件はそれぞれに特徴があり、バーチャル旅行に関しては、スライドを流したり、ご当地グルメを提供したり、工夫がされていた。美味しいものを食べると免疫力が上がるが、美味しくない物を食べると、免疫力が低下する。ぜひ、引き続き、美味しい食べ物を作っていただき、障害のある方を元気にしてほしい。



◆久保厚子審査員

全体を通して話をさせていただく。特に障害のある人は、食べることは楽しみであり、一日の生きるエネルギーのもとになっている。服部先生がおっしゃったように、免疫力を上げて毎日を過ごせるために、調理員一人ではなく、色々な職種が協議をし、相談をしながら工夫をこらしていらっしゃるという点が、今回受賞した4件から感じることができた。もっとこういう施設には増えていただきたいし、引き続き、心が温まる手料理を提供してほしい。



◆下浦佳之審査員

今回受賞に至らなかった団体は残念でしたが、審査員一同、悩みに悩んだ結果である。ぜひ、今やっておられることを継続していただきたいと思う。調理員さんだけでなく、多職種との連携をし、もっともっと調理師さんが輝ける形で食事を提供していただき、入所されている方・地域の方を笑顔に幸せになっていけるような食事作りをしていただきたいと思う。



◆村木厚子審査員(VTR 出演)

食べることは生きること。お寄せいただいたたくさんのストーリーから、生きることを支える上でも、とても大きな食の力を感じた。尊敬する先生が「福祉はにっこり。」とおっしゃっている。まさにこの、「にっこり」という福祉のパワーをととても感じられた。食には色々なプロセスがあるが、知識とか技術とか思いを、最後に形にしていくのは調理員さんの力であり、今回、調理員さんに焦点を当てたということもよかったことだと考えている。今日集まっている皆さんは障害者の福祉に一生懸命取り組んでこられている方々だと思うが、障害者の福祉がさらに駆け出して、みんな「にっこり」になり、調理員さんの力を色々な場面で実現できたらいいと思っている。



4.受賞団体によるコメント

◆(優秀賞)琴弾の丘:琴弾の丘はユニット型の入所施設で、一つ一つが独立した家のような建物になっている。食事は調理員の手作りで提供、家庭的な支援をすることを目指して取り組んでいる。調理員による食事提供という強みを生かして様々な行事食を実施できている。今回の応募は秋祭りで行ったイベントだったが、給食委員会で調理員・栄養士・支援員・管理職が半年かけて企画をした。大きな賞をいただいたことを施設に持ち帰って、ねぎらい、今後の食事支援に励んでいきたいと思う。



◆(優秀賞)むれやま荘:受賞を受け、いつも一緒に働いているスタッフに話したところ、大変喜んでくれ、今日、私をここに送り出してくれた。皆さまに少しでも施設調理員の仕事を知らせてもらえたことは、大変嬉しいことであり、今後も美味しい食事を提供するための励みとして、スタッフ一同努力していく所存である。



◆(審査員特別賞)三気の会:受賞の知らせが届いた際は、大変驚いた。日頃より、同僚の支援や調理師などたくさんの支えがあったおかげである。応募したエピソードは、2016年4月16日の熊本地震でのできごと。そのときは必死で、着の身着のまま集まった利用者さんのため、屋外で朝食の準備をした。障害特性を踏まえ、いつもと同じ味を提供することに夢中だったことを思い出した。利用者さんはこの先、自閉症スペクトラム症と高齢化ならではの体力低下など課題も出てくると思うが、利用者さんの健康の維持増進のために、支援員や看護師などの力を借りながら、これからもより一層尽力していきたい。



◆(審査員特別賞)清心会:この大舞台で素晴らしい賞をいただけたことを大変光栄に思う。今まで調理業務に携わる中で、なかなか注目を浴びることもなかったが、私たち調理員を支えてくださった大勢の方のおかげで、素晴らしい賞をいただけたと感じている。3種類から選んでいただくメニューも、利用者さんにお腹いっぱい好きなものを食べてほしいという思いから始まった。「ぼっぼのカレー」も給食のカレーから始まり、試行錯誤の末に実現することができた。すべては私たちの活力である利用者さんの笑顔のため。ここまで団結して作り上げることができた。ここが最終地点だと思わず、さらに上を目指していきたい。



5. 審査員・受賞団体による写真撮影



撮影：大西暢夫さん

6. 服部幸應審査員長による記念講演

日本博を契機とした「障害者の文化芸術フェスティバル」(2020～22年)において、障害のある方々と共にメニュー開発に取り組んだ服部幸應さん。今回は、2005年6月17日に公布された「食育基本法」をもとに、農林水産省「食育推進会議」委員、同「食育推進評価専門委員会」座長として、現在、北海道から沖縄まで、食育の普及のための運動に携わっていらっしゃる一部をご紹介します。